信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**Kasetsart-信州 理学部卒業研究発表会**		
学部・研究科名	理学部		
実施期間	2015年3月9日～3月13日		
研修先(国・都市・施設名)	タイ		
参加学生数 : 9名		知の森基金からの支援者 : 9名	
プログラム概要	信州大学理学部とタイ王国カセサート大学理学部の学生が研究発表を通じて交流することを目的としている。		

実施状況・成果

タイ王国カセサート大学理学部との交流を中心に、タイの文化に触れることができた5日間であった。海外が初めての者もいれば、何度も経験している者もいたが、後日行った成果発表の場においてそれぞれに何かを感じ、何かを得ているようであった。学習の意味を再確認したり、世界の中の日本ということを認識したり、そういう機会としてくれることを期待している。

その一方で、語学力という点では課題が残った。カセサート大学の学生との差が見られ、学生たち自身も感じていたと思われる。しかし、学生たちは、決して十分とは言えない英語力ながらも果敢にコミュニケーションをとろうとする姿を見せてくれた。研究発表の場だけではなく、食事をとりながら、観光しながら、タイの学生とコミュニケーションをとっていた。

予想外であったのは、帰国後もFacebook等のSNSを通して交流を続けていることで、ある意味、一番の成果であったかもしれない。学生たちは「機会」を与えることで成長することができる、それが実感できた5日間であった。

学生の声①-理工学系研究科　学生

初めての海外ではなかったが、多くの発見があった。過去にドイツ留学をしたり、アメリカ旅行などをしていたので欧米のことはよくわかっていたが、今回のツアーを通して、アジアの良さを再認識することができた。さらに、アジアの中の日本の良さというものを実感することができた。一方で、海外の人と交流する際には、相手の文化や歴史を勉強しておくことの重要性を感じた。それがあれば、一歩進んだコミュニケーションがとることができるだろうと思った。

学生の声②-理工学系研究科　学生

初めての海外で、コミュニケーションという点で課題が残った。もっと言えば、課題というより「悔しさ」があった。日々、「英語を勉強しろ」「グローバルだ」と言われていて、頭ではなんとなくわかったつもりでいるが、実際にはなかなか実行にうつせていないことが多いと思う。一緒に行った学生が、たしかに英語が堪能ではあったが、どんどんコミュニケーションをとっていくのを見て、どうやって語学を勉強したのかを聞いたところ、「使うこと」という答えであった。もっと言えば、「恥を捨てること」だと言う。当たり前のことができていない、それがわかったことが収穫であった。

タイ・カセサート大学